

かさぐるま

ひと 未来 輝いて

2014 OCTOBER

93



特集

次期経営計画の策定について

トピックス

平成26年度役員及び評議員

第35回全国障害者技能競技大会 (アビリンピック) 予選大会
吹浦荘「ハピネス」の皆さん、おめでとうございます!

平成25年度 山形県社会福祉事業団事業報告

新事業所「サポートセンターつるおか」活動開始!!

理事長就任のあいさつ

山形県社会福祉事業団 創立50周年記念事業

創立50周年
これからも ともに

次期経営計画の策定について

平成26年度も半年が過ぎようとしています。平成26年度山形県社会福祉事業団の経営方針や事業計画の中で、特にポイントとなるものが次期経営計画の策定になります。

このたび、次期経営計画は、「将来構想に基づく5か年実行計画」と名づけられ、その策定作業が始動しました。



1 策定委員会の趣旨について

平成25年9月の「将来構想検討会報告書」及び平成26年6月に県から示された「県立障がい者等施設見直し方針」に基づき、平成28年度から平成32年度までの実行計画を策定するために、理事長の諮問機関として「将来構想に基づく5か年実行計画」策定委員会が、本年7月に設置されました。

策定委員会は常務理事を委員長として事業団役職員8名で構成され、必要に応じて作業部会等を設置し、平成27年度末までに計画を策定することとしています。

2 経営計画策定のポイント

「将来構想検討会報告書」においては、事業団が、時代のニーズに対応した事業展開と持続的で安定した法人経営を確立するためには、中長期的視野に立った事業展開、組織運営及び財務基盤の確立等について、一定の方向性を定めておく必要があるとしています。

また、事業団の特性（先駆性、専門性、広域性及び事業・人材の多様性）を活かした事業展開、自律的な経営体質への転換、組織マネジメントの強化と働きがいのある職場づくりの推進、そして人材の安定的な確保と人材育成の重要性などが示されています。



一方、「県立障がい者等施設見直し方針」は、平成25年度に山形県が「県立障がい者等施設あり方検討委員会」を設置し、県立障がい者等施設の機能・役割等についての課題整理を行い、県の障がい福祉施策の将来展望を踏まえた今後のあり方を検討し、見直し方針案の取りまとめを行い、公表されました。

県立障がい者等施設における入所者の高齢化対応、強度行動障がい者の受入れ、重症心身障がい者短期入所の受入れ、難病等医療的ケアを伴う利用者の受入れ及び救護施設における在宅支援機能の強化など、新たなニーズに見合った施設の機能見直

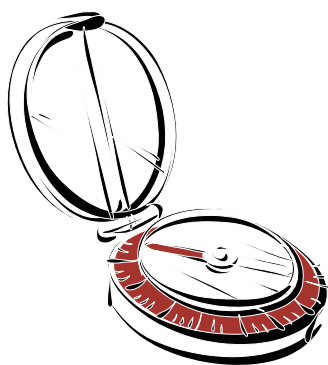


しを行うとともに、老朽化の著しい4施設（鶴峰園、慈丘園、梓園、希望が丘）の早期改築、そして、入所者の地域移行の推進や次期障がい福祉計画を踏まえた入所施設の定員見直しなどが示されています。

また、障がい者6施設（梓園、鶴峰園、慈丘園、吹浦荘、希望が丘、ワークショップ明星園）については、平成28年度から指定管理者である当事業団に移譲される方針が示されたことから、事業団としての将来構想を基本に据えて、具体的な経営計画を策定していきたいと考えます。



将来構想に基づく5か年実行計画策定委員



役職	所属名	職名	氏名
委員長	法人	常務理事	後藤 博
副委員長	事務局	局長	秋場 満
委員	希望が丘	所長	武田 庄司
〃	福寿荘	荘長	齋藤 俊昭
〃	鶴峰園	園長	高橋 栄一
〃	吹浦荘	荘長	色摩 誠
〃	みやま荘	荘長	石川 芳信
〃	サポートセンター ゆあーず	所長	二関 郁子

平成26年度 役員及び評議員

役職	氏名	現職
理事長	佐藤 護	専任
常務理事	後藤 博	専任
理事	青山 永策	山形県社会福祉協議会 会長
〃	前川 孝子	学識経験者
〃	山川 孝	弁護士
〃	富田 裕	医師
〃	武田 庄司	総合コロニー希望が丘 所長
監事	阿部 憲明	学識経験者
〃	松田 洋一	山形県生涯学習文化財団 専務理事

氏名	現職
梅木 欣一	山形県精神保健職親会連合会 会員
菊地 直	川西町社会福祉協議会 会長
池田 豊	学識経験者
松本 顕雄	河北町社会福祉協議会 会長
松田 昭裕	学識経験者
阿曾 友弥	学識経験者
渡辺 和子	学識経験者
小金 啓作	山形県身体障害者福祉協会 事務局長
小座間一夫	学識経験者
伊藤 齊	学識経験者
堀川 秀雄	利用者代表
高橋 宏	特別養護老人ホーム 寿泉荘 荘長
石川 芳信	救護施設 みやま荘 荘長
高橋 栄一	障害者支援施設 鶴峰園 園長
渡部 幸広	障害者支援施設 慈丘園 園長



第35回全国障害者技能競技大会 (アビリンピック) 予選大会

平成26年11月に愛知県で開催される「第35回全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック2014）」の予選大会が、平成26年6月28日（土）～29日（日）の日程で、山形県庁と上山高等養護学校を会場に開催され、鶴峰園からも選手が参加しました。



もくもくと競技に取り組む選手たち

大会に出場した選手は、出場競技種目に係る専門の講師を招聘し、マンツーマンで練習を行ってきたり、所属事業所の職員が指導者となって練習を積んだり、様々な形で準備をして予選大会に臨みました。

また、この度の予選大会では、平成28年度に山形県で開催するアビリンピック全国大会で目標にしている「山形県から20競技種目の出場」を見据え、「パソコンデータ入力」、「パソコン操作」、「ホームページ」、「機械CAD」、「縫製」の5つの新規種目を実施しました。成績優秀者は、先に行われた「アビリンピックやまがた2013」同様、愛知県で開催される全国大会参加選手の推薦候補となります。

そして、それら新規種目に出場した選手を、県内事業所を一つひとつ回って発掘しているのが、当法人のアビリンピック推進員です。

奇しくも、アビリンピック全国大会が山形県で開催される平成28年は、改正障害者雇用促進法の施行年です。選手皆さんの、さらなる活躍に期待するとともに、日々選手発掘に努めているアビリンピック推進員の地道な活動には、重要な役割があることを実感します。

吹浦荘「ハピネス」の皆さん、おめでとうございます!!

全国社会福祉事業団協議会が主催する第37回実践報告論文に、吹浦荘職員の皆さん（サークル「ハピネス」）が応募したところ、全63編の応募があった中で佳作に入選（入選論文計14編）しました。おめでとうございます!!

「ハピネス」の皆さんが掲げた論文テーマは、「地産地消をかねての食育～食育を利用者と共に楽しみながら～」であり、自前調理のメリットを最大限活かした取り組みを、福祉QC手法を用いながら実践しました。

論文の全容は、法人ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください!!

【サークル「ハピネス」のメンバー】

池田みづほ、仲鉢 昭夫、佐藤 美貴
石垣 律、石垣 智美、信夫 悠



土用丑の日のプレゼンテーション

平成25年度 山形県社会福祉事業団事業報告

県民福祉の向上と福祉人材の育成

平成25年度は、前年度に引き続き、利用者の権利擁護と個人の尊厳に基づく自立支援や社会参加を推進していくことを経営理念の第一に掲げ、指定管理者制度による県立障がい者施設等の受託経営、特別養護老人ホームの設置経営、障害者総合支援法及び介護保険法に基づく各種サービス事業所の設置経営並びに県委託研修事業の実施等を通じて、県民福祉の向上と福祉人材の育成に努めた。

また、新たな事業として、平成28年に山形県で開催される全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）に伴う選手発掘・育成推進事業の委託を受け、選手発掘推進員1名を配置し、参加する選手の発掘と育成を行った。



第34回アビリンピック視察

山形県社会福祉事業団将来構想検討会

平成24年10月に設置した「山形県社会福祉事業団将来構想検討会」については、新たに事業推進部会と財務・経営部会の二つの部会を設置し、将来構想に関する具体的な取り組みや方向性について議論を深め、平成25年8月に検討会報告書の「中間まとめ」が示された。その後、職員への意見聴取や施設長会議を経て理事長に最終報告書（案）が提出され、評議員会及び理事会への報告のあと、平成25年9月末に「将来構想検討会最終報告書」として公表され、第二期指定管理後の事業団としての一定の方向性が示された。



将来構想検討会

法人の経営基盤の確立については、第二期経営計画に基づき、事業団の持続的・安定的経営の確保に向けて事業収支の改善等の取り組みを推進した。なお、財務基盤の確立については、運転資金、特養修繕積立金及び特養改築積立金の確保に努めるとともに、職員の経営意識の醸成に努めた。

人材の確保・育成と質の高いサービスの提供

人材の確保・育成については、職員採用試験を実施し、28名（主事3、援助員20、看護師4、調理師1）を採用した。また、一般職から総合職への登用試験を実施し、20名（主事3、援助員16、調理師1）を登用した。加えて、介護職員処遇改善加算及び福祉・介護人材の処遇改善加算制度を活用し、非正規職員等の賃金改善を継続して実施した。なお、高年齢再雇用としては、継続雇用を希望した定年退職者を援助職員として3名採用した。

各施設の運営にあたっては、サービス評価、苦情解決及びリスク管理等の各委員会を活用し、質の高いサービスの提供や業務改善を図った。また、事故防止重点期間を設定するなど、リスクマネジメントの強化を図った結果、重大事故の発生等は見なかったが、引き続きリスクマネジメントへの対応を進める必要がある。

地域生活の支援の充実

共同生活介護事業所及び共同生活援助事業所（ケアホーム及びグループホーム）は、10事業所で住居数が49か所、利用定員が237人であり、現在の設置状況は横ばいとなっているが、定員を満たしていないホームもみられる。また、グループホーム等の介護ニーズも高まってきていることから、今後の制度改正も視野に入れながら、引き続き事業運営について検討する必要がある。

地域活動支援センター及び日中一時支援事業所等については、各自治体からの委託契約に基づき事業を実施し、地域・在宅福祉を推進するとともに、相談支援事業所（一般相談支援、特定相談支援及び障害児相談支援）については、組織のあり方や事業の実施方法等も含め、関係市町村のニーズを把握しながら、体制整備に努めた。

各種研修の開催および運営



講義 ～山形県サービス管理責任者及び
児童発達支援管理責任者研修～

福祉人材の育成に関しては、事業団の持つノウハウや人材を活用し、各施設（事業所）でセミナー等を開催するとともに、山形県からの委託事業として「サービス管理責任者研修及び児童発達支援管理責任者研修」、「障がい者相談支援従事者研修」、「行動援護従業者養成研修」、「障害者虐待防止・権利擁護研修」及び「認知症介護研修事業」を継続して実施し、民間事業者等の福祉事業従事者及び実践者の育成を図った。加えて、特別養護老人ホームにおいて、介護資格の取得と雇用を推進する「介護雇用プログラム推進事業」を県からの委託により実施した。

関係自治体との協定（福祉避難所）

福祉避難所の指定や虐待防止に伴う緊急受け入れなどの地域ニーズについては、積極的に協力するとともに、県と連携を図りながら福祉避難所4施設（障害者支援施設3、特別養護老人ホーム1）、虐待による一時保護1施設（障害者支援施設）で関係自治体と協定等を締結した。

サービス向上および安全対策のための施設整備

施設整備については、特別養護老人ホームに、リフト付きワゴン車、業務用全自動洗濯機及び電動ベッド等の更新を行い、利用者サービスの向上と安全対策の推進に努めた。

※なお、平成25年度決算書については、当法人ホームページに掲載しております。
ホームページURL：<http://www.ysj.or.jp/>

新事業所「サポートセンターつるおか」活動開始!!

所長(兼)相談支援専門員 伊澤 さおり

つるおか、開設!!

平成26年6月1日に、「サポートセンターつるおか」が設置され、「特定相談支援事業所つるおか」を開設いたしました。これで当法人が県内で運営する相談支援事業所は6ヶ所となりました。

福祉の町、鶴岡

鶴岡市は、明治時代に大督寺境内でお坊さんが欠食児童に給食を振舞った学校給食発祥の地と言われています。慈しみの精神は現在も引き継がれ、市内の多くの公共施設では、様々な障がいのある人が生き生きと働く姿を目にすることができ、ボランティア活動や当事者活動が盛んな「福祉の町」です。こうした住民の自治意識や組織力が、伝統を重んじつつ先進的な取り組みを行う鶴岡人のパワーではないかと感じる毎日です。



玄関にて

ぜひ、お立ち寄りください!!

「つるおか」での相談支援事業は始まったばかりですが、鶴岡市自立支援協議会相談部会や研修の機会を通じ、スキルアップを図るとともに県立鶴岡病院の新築移転に伴い、障がい者一人ひとりに合った支援のネットワークづくりや支援の輪を広げていきたいと思っております。「つるおか」は今年度、県立慈丘園の職員公舎を借り、相談員2名体制で事業を行っております。クラゲで有名な加茂水族館も近くにありますので、お越しの際は気軽にお立ち寄りください。今後ともよろしく願いいたします。



相談室

- 事業所名：相談支援事業所「つるおか」（指定特定相談支援）
- 住所：〒997-1117 山形県鶴岡市下川字窪畑183番地5
- 連絡先：TEL.0235-64-8861 FAX.0235-64-8862 E-mail: tsuruoka1@ysj.or.jp
- 営業日：月曜日から金曜日までとする。ただし、次の定める日を除く。
 - ①12月29日から1月3日
 - ②国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - ③その他事業所が別に定める日
- 営業時間：午前8時30分から午後5時まで
- アクセス：鶴岡市中心部から車で20分、「庄内空港IC」から車で5分



事業団100年の計 —就任のあいさつ—

社会福祉法人
山形県社会福祉事業団
理事長 佐藤 護



はじめに

本年4月1日をもって理事長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。就任早々駆け足ではありましたが、運営する施設、事業所などを訪問させていただきました。県内一円で4月9日までの行程となり、事業団の広域性について身をもって感じたところです。また、利用者が1200名を数えるなかで、職員が日々サービス提供に努めている状況を見聞きし、事業団が担う役割の大きさに職責の重さを改めて認識いたしました。

福祉の在りよう和我们

今日、少子高齢社会にあって、保育所の待機児童解消、特別養護老人ホームの入所待ち、行方不明となった認知症高齢者への対応など、福祉・介護の現状や施策に関するニュースが日常的に取り上げられています。今や福祉・介護の在りようが、私たちの生活の在り方を形作る大きな要素のひとつになっています。

私が、福祉六法のケースワーカーとして県に奉職した昭和50年代の初めには、福祉は、何らかのハンディキャップのある一部の方たちに対するもので、多くの人にとっては、非日常的な分野であったと思います。また、当時は介護という言葉も日常的ではなかったと思います。

より高い専門性と先駆性を

5年間のケースワーカー勤務を終え、その後は福祉の現場に携わってはおりませんが、今年度から事業団への勤務となり、福祉が当時とは比較にならないくらい多くの人々の幸せにかかわる重要な分野であるとの思いを強くしています。また、子どもにおいては発達障害、さらには、成長にともない顕著となる強度行動障害、中高年の認知症、医学の進歩により明らかにされつつある難病など、年代を問わず支援が必要な分野の拡大と重度化が進んでおります。このため福祉・介護の職員には、より高い専門性や先駆性が求められており、福祉職場も困難性が増していると思います。

お互い様だね、という心

一方で福祉は、行政施策により提供されるサービスであるとともに、住民の助け合いにより提供されるものでもあり、自助、共助、公助がうまくかみ合って、私たちの生活が支えられるものと思います。その点では、私たち一人ひとりが福祉の心を持ち続けることが大事だと思っており、私の銘とする言葉に、「子ども叱るな、いつか来た道。年寄り嫌うな（笑うな）、いつか行く道。」というのがあります。福祉とは直接関係ない言葉かもしれませんが、私にとっては、ちょっと力を抜きながらも、お互い様だねという心が福祉の原点のような感じがします。

創立50年目という節目

さて、山形県社会福祉事業団が財団法人として産声を上げたのは、昭和39年でした。翌年には社会福祉法人となり、今年で50年目を迎えました。当初は、県立福祉施設の受託運営を行っていましたが、介護保険制度や指定管理者制度の導入など幾多の変遷を経て、現在、自主経営の特別養護老人ホーム4施設及び相談・生活支援などのサポートセンター7か所、県立障がい者等施設の指定管理9施設の運営を行っております。



事業団100年の計

まさに、当事業団は、半世紀にわたり山形県における福祉事業の先導的な役割を担ってきたところですが、このたび、県立障がい者等施設6施設について、平成28年度から事業団へ移譲したいとの提案が県からなされました。内容は6月定例県議会においても示されましたが、指定管理制度の問題点を排除しつつ、施設改修を含め障がい者支援機能の強化を目的とするものです。



事業団としては、満50年を迎えた今、この提案を天の時としてとらえられるのか、地の利はあるのか、人の和が得られるのかの判断が大きな課題となってきました。国家100年の計という言葉があります。50年先の社会福祉制度については定かではありませんが、50年を歩んだ事業団であるからこそ、50年先を見据えた計を持ちたいと思います。節目の年である平成26年度が、事業団100年の計の折り返しの一步となるよう、努力してまいりたいと考えております。

山形県社会福祉事業団 創立50周年記念事業

～ 利用者とともに歩みつづけた50年～



設立登記時、県庁社会課内(現:文翔館)に事務局が設置され、当事業団は産声をあげました。

黎明の時から50年…

昭和39年(1964年)5月14日。財団法人山形県社会福祉事業団が設立登記された日です。この年は、東京オリンピックが開幕、日本は高度経済成長期にあり、福祉で言えば、社会保障制度が整備されていった時代でした。

当法人が産声を上げてから、今年度で50年になります。山形県老人福祉センターや老人保養所寿楽荘の受託経営から始まった当事業団の経営は、その後、多くの県民の声に支えられ、今日に至りました。

創立50周年記念事業

創立50周年を迎えるにあたり、以下の記念事業を行います。

(1) 記念式典・祝賀会

平成26年12月5日(金)に当法人の設立や運営に深くかかわった方々をお招きし、開催する予定です。式典や祝賀会を通じて感謝の意を表したいと考えています。

(2) 記念DVDの作成

創立50周年を記念し、当法人の沿革や現在の施設事業等についてDVDにまとめ、紹介します。なお、このDVDは、記念式典当日に上映するとともに、法人ホームページにも掲載する予定です。

(3) 記念誌(創立50周年記念誌)

新たな50年に向かって一歩を踏み出すために、これまでの歩みと現状、そして将来のあるべき姿などを記念誌としてまとめることにしています。

(4) 記念品の作成

創立50周年記念の記章を作成する予定です。なお、記章のデザインは、職員からの応募に基づき、選考のうえ作成します。

掛け流しの温泉でゆったりのおんびり疲れを癒す

手作り料理にきっと満足!!

1泊2食付

60歳以上の方・母子(寡婦)・
身体障がい者の方

5,350円(税込)

【一般の方6,280円(税込)】

◎料金の詳細についてはお気軽にお尋ね下さい。

◎送迎サービスは庄内地区宿泊7名様からご相談に応じます。

さまざまな楽しいイベントも企画しておりますので、
お気軽にお問い合わせください。

ホームページでも情報を発信しております。

寿海荘ホームページアドレス <http://www.jyukaiso.jp/>

ご意見はメール info@jyukaiso.jpまでお願いいたします。

山形県福祉休養ホーム

あつみ温泉

寿海荘

お問い合わせ(ご予約)

0235-43-4173

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里88-1

寿海荘

